



作業所に飛び込みの仕事が入る時があります。今回は、「紙芝居セット」です。地域の出版会社さんから、「ワークさんに助けてもらえないか・・・」という依頼でした。

頼まれるとイヤとは言えないのが『ワーク魂』です。紙芝居ってどんな仕事かな？と好奇心もワクワク。どのようにしたら仲間がやりやすいかな？と、あれこれ考えながら奮闘中です。

紙芝居の内容はというと、ライオンを主人公にした24幕の憲法のおはなしです。

「人間らしく生きるってどういうことなん？」など会話も飛び交います。



ベテランの仲間は、「ビニール手袋をした方が傷つかないよ。」「1枚1枚ていねいに取ってな。」と後輩に教えてくれています。こんな形で、先輩から後輩に「仕事に取り組む姿勢」がつながるんだなあと思います。全国でこの紙芝居を手にとってくれる方にも「思い」をつなげたい仕事です。

作業所で働く仲間たちは、障がいがあっても「力いっぱい生きる」「一人ひとり違ってOK」ということをごく当たり前に日々を過ごしています。しかもとってもナチュラルなのが魅力的なのです。

*ワークハウスでは、障がいのある仲間たちが力を発揮できる仕事を募集しています。お気軽にお問合せ下さい。



ごあいさつ

この3月で退職されることになりました職員からメッセージを頂きましたのでご紹介いたします。新天地での活躍をお祈りしております。

3月いっぱい「まんまん堂」スタッフの仕事の辞めさせていただくことになりました。一昨年12月から1年4か月という短い期間でしたが、楽しくお仕事をさせていただきました。はじめてのことばかりで右も左もわからず戸惑う毎日でしたが、優しく、時に厳しく指導し、励ましてくださったスタッフのみなさんに感謝しております。

自分のことで精一杯で仲間の様子など見る余裕もなく、ご迷惑をおかけしたことも多々ありました。それでも常に冷静に優しく接してくださった皆さん、本当にありがとうございました。今後は今までのような仕事はできませんが、また何らかの形で少しでもお手伝いできればと思っております。その際はまたどうぞ、よろしく願います。
荒木 信子

「まある」、「まんまん堂」、そして「あつと」と、4年間お世話になりました。いつもひとりひとりの個性が輝き、真剣に悩んだり、大笑いしたりの間からは、たくさんのおたかいハートをいただきました。若い世話人さんと共に働けたこともよい刺激になりました。仲間と家族のみなさん、そして職員のみなさん、本当にありがとうございました。
内山 郁子

ワークでみなさんと過ごした9年間は、言葉で言い表すことのできない私の宝物です。受け止める強い力、許すことができる優しい心、やりたい！頑張りたい！前向きな意欲、いつも仲間から元気をもらい、たくさんのお話を教わりました。みなさんと出逢えて、一緒に過ごせたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。
吉川 裕子



所長退任のあいさつ

この度、3月末をもちまして所長を退任することとなりました。12年前に所長を引き継ぐこととなり、責任の重みに悩みながら、力不足を感じながら所長の大役を果たすことが出来ました。また、家族会・後援会そして何より仲間の支えがあったからこそ改めて感謝し御礼申し上げます。

所長となって、障害者自立支援法への移行や新たなグループホームの開所、カフェのオープン、耐震工事など多くの課題に全員で取り組み、その一旦を担うことができたことを、これからの自分の糧としていければと思っております。また、作業所を支えてくださる方々との出会いは、かけがえない大切なものとなりました。改めて感謝申し上げます。

4月よりは一職員として現場に入らせていただくこととなりました。久しぶりの現場復帰で不安を抱えてのスタートとなりますが、改めて学びを深め頑張っていかなければと思っております。

後任として、西村みつ子が所長に就任いたします。どうか、これからもより一層のご指導、ご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。

藤井 嘉子



西村さんと藤井さん
とても仲の良いお二人です。

☆藤井さんにインタビュー☆
○ワークハウスに入った年
1986年5月
○好きな行事 作業所旅行?
○所長になって一番びっくりしたこと
夜間、作業所に用事で戻った際、泥棒と鉢合わせしたこと。
○仲間に言われて嬉しかったこと
作業所に来たころは、言葉を発しなかった仲間が「藤井さん」と呼んでくれたこと。
そんなことは、いっぱいあります。それが、私たち職員の元気の源です。

ごあいさつ

4月から上京ワークハウスの所長に就任することとなりました。お話をいただいてからというものの、任務を果たせるか?自分が本当に取組みたいことは何か?などずっと考え、悩んできました。この年になって、まだまだ未熟なので心配ばかりしていますが、藤井所長から受け取ったバトンを落とさず、未来につなげる役目を全力で果たしていきたいと思っております。

さて、最近の私たちの周りを注意深くみますと、国の根幹をなす政治不安が深刻です。経済的利益が最優先される社会は、国民の命を守る方向で機能していると実感できず、政治離れがどんどん進んでいます。防衛予算は7年連続で引き上げられる一方で福祉や医療、教育の予算はけずられ、国民の生活は厳しくなっています。各地で起きる災害や貧困、虐待により多くの人の命が奪われています。障がいのある方々はどうでしょう。生産性が何より優先される中で生まれる「優生思想」により、障がいのある方々の生きる尊厳が歴史的にふみにじられてきたことが明らかにされました。障害者雇用増し問題では、官民いづれも虚偽にまみれ、水の入ったザルのように一番に政策から漏れるのは障がいのある方々だと痛感しました。

このような中で、私たちの事業所果たす役割は何かと問い続けています。地域の中で事業を展開していくこと。多くの方に障がいのある方たちが働き、生活する姿を知っていただくこと。一人ひとりの可能性を信じ支援にあたること。誰もが安心して生きられるための政策の提案や社会づくりに貢献していくこと。

答えは一つではなくたくさんあると思います。障がいのある仲間達やご家族、職員、関係者みなで「ワークハウスならではの答え」を求めながら一緒に取り組んでいきたいと思っております。

ワークハウスは1983年に誕生し、今年で36年になります。共同作業所から始まった歩みは、いつも仲間達が主人公でした。どんな障がいがあっても、みんなの笑顔が輝く日々を積み重ねていきたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

西村 みつ子